

| | |
|----------------|------------|
| 科目名・授業形態 | ツーリズム論【対面】 |
| 開講日程(学期・曜日・講時) | 木曜日3講時 |
| 担当者 | 春日雅司 |

| | | | |
|------------|---|---|--|
| 副題 | スコットランドに学ぶ | | |
| 授業の到達目標 | ツーリズムという言葉がもつ多義性について理解していただきます。旅する側であれ、その人たちをもてなす側であれ、旅する者のところを理解することで、より楽しく充実した旅を実現できるような基本的事項について学ぶことで、これからの人生、みなさんがそれとどう向き合っていくのかを考えてみる、それを最終目標とします。 | | |
| 授業の概要 | 観光とかツーリズムといわれる行動や現象について考えていきます。すでにもうたくさん旅行していると業界で働いてきた、あるいは将来もっと旅行したいとか業界で働きたいとか、立場はいろいろかと思えます。そのような立ち位置の違いをある程度考慮しながら、観光やツーリズムにかかわる人々の行動や現象をみていきます。概念などは避けて通れませんが、具体的には、私が長年かかわり関心を持っているイングランドやスコットランドを事例としてとりあげます。国内に関しては、とりわけ農村部の地域活性化策として早くから観光やツーリズムの重要性が謳われてきましたが、しかし必ずしもうまくいかなかったといえます。その理由と今後どうすればいいのか、「田舎」の魅力とその活性化に向けたツーリズムのあり方についても考えていきます。 | | |
| 授業の計画 | 第 1回【10/ 5(木)】 | 「観光」は「ツーリズム」の訳語か？ | |
| | 第 2回【10/12(木)】 | 「風景」の発見 | |
| | 第 3回【10/19(木)】 | 「ツーリズム」はどこで、いつ始まった？——イングランドにおけるツーリズムの展開 | |
| | 第 4回【10/26(木)】 | スコットランドがツーリズムの対象として注目された理由と歴史 | |
| | 第 5回【11/ 9(木)】 | 日本の農村ツーリズムがなぜうまくいかないのか？ | |
| | 第 6回【11/16(木)】 | 「ツーリズム」とどう向き合うか？ | |
| 評価方法 | 評価項目 | 配分(%) | 評価の観点 |
| | 中間簡易テスト(レポート) | 60% | 積極性と協調性(主張もするが他の人の見解にもしっかり耳を傾けること) |
| | 最終簡易テスト(レポート) | 40% | みなさんひとりひとりの経験にもとづいてしっかりまとめているかどうか。 |
| | 授業の達成度 | | ハウツーものでもありませんし、何か特定の技能を獲得するというものものでもありません。それぞれが自分の中で「そうか」といった気づきを感じていただくことが大切です。 |
| 履修生へのメッセージ | みなさん、「旅」は子供のころから家族・学校・友達などいろいろな形で体験し本やメディアを通じて経験しているでしょう。でも、今後仕事に邁進していけばいほどこれまで以上に深化/進化した形の「旅」が必要となります。「旅」することの体験や経験は個人差が大きいのですが、それを学問的に学びなおしていただくことで、これからの人生を楽しく充実したものにさせていただきたいと思えます。 | | |
| 教科書 | | | |
| 参考書 | 春日雅司, 2020, 『スコットランド——ウイスキーとツーリズム』彩流社 | | |